さて今回は「目を見て話す」。最近訪問授業に行ってても地域の普通学校では「相手の目を見て話しなさい！」って言葉が飛び交ってます。軽度の発達障害の子ども達はそういう風に覚えてしまってるかも知れませんねぇ。僕の友達にも、相手の目を見て話す事しかできない奴がいて、昔はえらい気味悪がられていましたね。
どこかのタイミングで「目を見て話しなさい！」と言われていたんでしょうねぇ。彼曰く「目をそらすタイミングがわからんねん・・・」と言ってました。
こういう「雰囲気」で感じ取らなければいけないコミュニケーションってほんと難しいですよねぇ～・・・・　久田

第 44 回『わかるように伝えていますか』

香川大学　坂井　聡

「目を見て話しなさい」

　私たちは、子どもに対して「目を見て話しなさい」ということがあります。とくに注目してもらいたいときにそのようにいうのですが、場合によってはマイナスに作用することもあるのです。

サトシ君は、ある集会の時に先生が「先生の目を見ていますか？話を聞くときは目を見ましょう。みんなの目が先生の方に向いています。とてもいいですね。お話するときもしっかり目を見て話しますよ。いいですか」といっているのを聞きました。
サトシ君は、以前から「先生の言うことは聞きましょう」と言われていたので、先生が言うことは守らなければならないと思っていました。そして、この集会のときに学んだのは、話をしたり聞いたりするときには、目を見るのがいいのだということだったのです。
サトシ君の悩みは、この時から始まったということなのです。サトシ君は、その時からできるだけ人の目を見て話をしたり、聞いたりするようになったのです。
小学校の低学年のときは、それを実践していても何も言われなかったのですが、高学年になった時に、ある時、アヤちゃんと話をしていたとき、アヤちゃんがサトシ君に「あなたは、いつも話をするときにどうしてジロジロ見るのよ。とても気持ちが悪いからやめてくれない」
と言われたのです。他のクラスメイトからも同じようなことを言われるようになりました。
しかし、サトシ君は、以前先生に言われたように、話を聞くときや話をするときには目を見ましょうと言われていて、それをそのとおりに実践していたのです。
なぜ、クラスメイトが「じろじろ見るな」といってくるのかが分かりませんでした。
サトシ君が理解したのは、どうも自分は嫌われているのではないかということです。サトシ君はだんだんと話をするのが怖くなります。話そうとしても、また、「じろじろ見るのはやめて」といわれてしまうと思うからです。
そこからは下を向いてあまり人の顔は見ないようになっていったのです。

先生の一言が、子どもの行動を左右することがあります。人の目を見て話しなさいと言ったことのある先生も多いと思います。でも、もしそれをされたらきっとその先生も「じろじろと目を見ながら話すのはやめなさい」というはずです。
見るところを伝える時に配慮を要する子どもがいるということを知っておくことが大切です。
見るのは、ネクタイの結び目あたり、あごのあたり、この辺を見ましょうと伝えてみたらどうでしょうか。それで、顔が上がる子どももいるかもしれないのです。

坂井聡先生の紹介
（プロフィール）
香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、 香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、 現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞
（著書）
暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里）クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会）自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンパワメント研究所）など